

2013.2.26

「改めて言う TPP に対する私の立場 百害あって一利なし」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。今日は2月27日、火曜日です。

先ほど、TPP の即時撤回を求める会の総会に参加して参りました。安倍総理がオバマ大統領と日米首脳会談をされた後、安倍総理からの TPP 交渉に参加する判断を自分に一任して欲しい、という要請が自民党の役員会で承認されたという報道がありました。そのことを受けて今回、TPP の即時撤回を求める会の総会が開かれたのです。そこで政府側から説明があったのですが、ここで私の立場をもう一度明らかにしておきたい。

TPP 参加は百害あって一利なし、だと考えており、TPP 参加には反対です。その理由は、メリットとデメリットを見比べた時に、メリットのほうが大きいとは思われないからです。デメリットについて詳しく見ると、農業だけではなく、非関税項目も交渉の矢面に立ち、変更されることで日本の国の形そのものの變更に直結します。メリットについてみると、国民総所得－GNI (Gross National Income) は大きくなる、つまり輸出企業の利益は増えるかもしれませんが、日本国内全体の国内総生産－GDP (Gross Domestic Product) は成長しません。メリット・デメリットについて政府側からしっかりとした説明が必要なのです。

TPP 交渉参加に賛成する世論が六割になるまでに増えてきており、これは安

倍総理の支持率が増えてきているのに比例しています。しかし、我々国会議員の中でも **TPP** のメリット・デメリットについて理解しているのは少ないのです。ましてや国民の大多数がメリット・デメリットについてよく理解している状況とは言えません。なんとなく賛成だ、という意見が大半なのではないでしょうか。

そこで私は幕末の話をしたいのです。幕末には攘夷か、開国かということで意見が真っ二つに割れていました。このなかで、結局は開国派が勝っていくのです。ところが、条約の中身がよくわからないままであったため、その後五六十年来に渡り、不平等条約を強いられることになり大変な損害を被りました。この故事をよく思い起こして、安倍総理が交渉参加すると決めるにしても、メリット・デメリットをしっかりと洗い出して欲しいのです。

交渉参加についても、今回自民党は **6** つの公約を掲げています。聖域なき関税撤廃はダメだ、ということだけではなく、**ISD** 条項をはじめ、様々なことを書いています。当然、安倍総理はこの **6** つの公約をオバマ大統領に伝えていると思います。特に、民主党政権下で日米関係はぼろぼろに毀損されたのですから、その修復は懸案事項だったのです。ですから、トータルに考えて安倍総理が今回オバマ大統領と会われてきたことには一定の評価をしなければならないと思います。

ただ、今まで述べてきた **TPP** 交渉参加について一部の自民党議員が抱えて

いる懸念を払しょくするような説明が、政府側からは一切なされていません。もう一度、しっかりと TPP 交渉のメリット・デメリットについて説明していただきたい。

そして、例え交渉参加したとしても、条件交渉というのは非常にハードルが高いものです。TPP 参加に懐疑的な議員がデメリットを国民に説明し、政府に対して示すことで、政府側も交渉する際に相手国の譲歩を引き出しやすくなる、という効果もあります。このことも踏まえて、安倍総理には自民党が掲げた 6 条件をしっかりとご認識していただいた上で、TPP 交渉参加に望んでいただきたいと思います。

安倍総理が誕生して、政権運営は民主党よりもはるかに良いものになりました。今後も良くなると期待されている方がたくさんいらっしゃいます。安倍総理が今後も正しい判断をできるように、我々もしっかりと正しい情報をお伝えしたいと考えており、我々がとるべき道はこの他ありません。

今回は TPP について私が今考えていることを皆様方に率直にお話させて頂きました。今後もよろしくお願いします。